

2019年4月28日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「^{さんぽかい}燦歩会」例会 (第480回)

ならやま
平城山丘陵の古墳と平城宮跡を訪ねる(奈良)

午前10時、奈良市の近鉄尼ヶ辻(あまがつじ)駅に集合。参加は男性12名、女性7名でした。気温は半月ほど逆戻りした感じでしたが、穏やかな燦歩日和です。

垂仁(すいにん)天皇陵(宝来山古墳)

尼ヶ辻駅のすぐ西、広大な濠の中に前方後円墳が浮かんでいます。新緑の古墳。水面に青空が映えて、まことに心地よい風景です。



巨大です。墳丘の長さは227m、全国の古墳の中では20番目の大きさです。濠を含めた総長は330mもあります。左が前方部で拝所が設けられ、右が後円部です。宮内庁では第11代垂仁天皇の御陵「菅原伏見東陵(すがはらのふしみのひがしのみささぎ)」に治定(じじょう=決定)、地元では宝来山と呼び慣わし、考古学上の遺跡名は宝来山古墳です。この日に巡る古墳は、いずれも4~5世紀に築造されたものと考えられています。

おなじみの大和名所図会(1791=寛政3年刊行)の垂仁天皇陵は、北から描かれています。すっかり自然の島になっていますね。垂仁天皇陵が、今日のような姿になるのは、幕末に多くの天皇陵で大々的に行われた「文久の修陵(1863~4)」事業によります。



図の手前を蛇行している道は、

右下隅(赤丸印)に小さく「大坂道」と

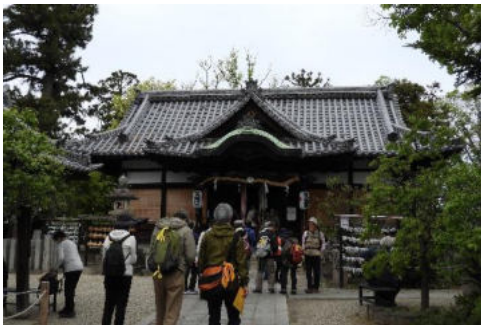
あるように、生駒山の暗峠(くらがりとうげ)を越えて大阪へ行く街道です。

ただの田んぼ道の様にも見えますが、元々は平城京の三条大路で、東へ行くと興福寺や春日大社に至る、メインストリートなのです。



今回のルートを略図にしてみました。左下の垂仁天皇陵から北上して、菅原天満宮、西大寺、秋篠寺を經由、神功皇后（じんぐうこうごう）陵、南下して成務天皇陵と日葉酢媛（ひばすひめ）命陵、更に平城（へいぜい）天皇陵と平城宮跡という、古代史に遊ぶ燦歩です。

菅原天満宮 10世紀の法令集「延喜式」にも記載されている由緒ある神社です。古墳の集中するこの地の豪族土師（はじ）氏は、土器・埴輪の製作、葬礼や陵墓の管理に当たる人々でした。その中から分かれた支族に菅原氏があります。この辺り平城京の西郊の丘陵は菅（スゲ）が生い茂る原だったと言われ、それに名を得たのでしょうか。後の天神さま菅原道真もこの地に縁のある人だったとか。梅の実も膨らんでいました。



西大寺

藤の花が真っ盛りでした。

764（天平宝字8）年、孝謙上皇（称徳天皇）が恵美押勝の乱の平定を祈願したのが始まりで、多くの堂塔が建ち並ぶ壮大な伽藍が営まれます。東の東大寺と並んで、七大寺の一つに数えられていました。しかし平安時代以降衰退し、堂塔も火災や台風で失われ、鎌倉時代に再興はされますが、また戦国の争乱で大きな被害を受けています。本堂前に残る巨大な東塔の基壇と礎石が、盛んな様を偲ばせます。今は大きなお椀で抹茶を喫する「大茶盛」で有名ですね。



秋篠寺

この地の豪族秋篠氏の氏寺ともいわれますが、奈良時代末の頃には、朝廷から維持費が支給されていた記録もあり、その歴史と由緒が知られます。庭を苔が美しく彩っていました。ウグイスの鳴く境内で一休みです。

ここで女性会員1名が合流、20名になりました。



神功皇后陵（五社神（ごさし）古墳）

奈良と京都の境に小山の点在する平城山丘陵。この辺りは、佐紀盾列（さきたたなみ）古墳群と呼ばれています。ここもその一角の大きい古墳です。墳丘の長さ267m、全国12番目の大きさです。

「五社神」とはここにあった小さな祠の名前だそうです。神功皇后は第14代仲哀天王の皇后として、武勇に優れた神話が残されています。なお、夫の仲哀天王のお墓は、去年1月に燦歩した河内の古市古墳群にありましたね。



成務天皇陵（佐紀石塚山古墳）～日葉酢媛命陵（佐紀陵山古墳）

成務天皇陵と日葉酢媛命陵の間の道は、ゆるやかなカーブを描いています。略図にもある通り、この辺りは大きな古墳がまるでジグソーパズルのように入り組んでいます。

写真の左半分が日葉酢媛命（ひばすひめのみこと）陵の後円部、右半分が成務天皇陵の濠です。左の方が先に作られたようですが、その差は数十年程度で、なぜ食い込むように作られているのか、理由は分かっていません。この辺り、平城山丘陵の先端部で、余地が少なかったからでしょうか？

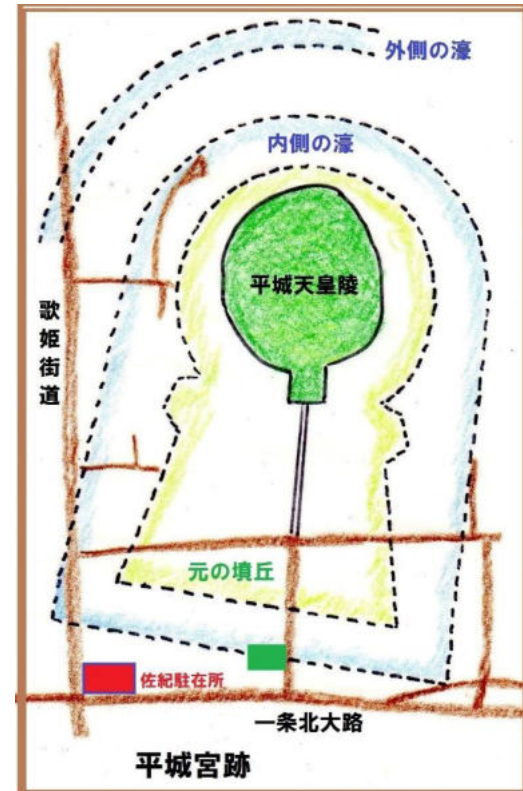
道は緩やかに平城宮跡に降って行きます。



平城（へいぜい）天皇陵（市庭古墳）

平城宮跡のすぐ北側、今は住宅街に囲まれた小山です。かつては、直径100mを超える、最大級の円墳と考えられてきましたが、周辺の発掘調査で、図のように二重の濠を巡らせた前方後円墳である事が分かりました。黒い点線が、墳丘と濠のラインです。左下の交差点には警察の佐紀駐在所（略図■）がありますから、位置関係が分かりやすいと思います。元の姿ならば、墳丘の長さは253m、全国第14位に相当する大きさです。

8世紀初め、奈良の都を造成する際に、丘を削って濠を埋め、内裏関係の役所などを置き、一部は松林苑（しょうりんえん）という庭園にされたようです。残った後円部は、庭園の借景にされたとも考えられています。いま濠の外側の線には、跡を示す石が並べられています。私達も草地に目を凝らして、ようやく石の列を見つける事が出来ました。（略図■）
濠の南端、東に延びるラインで、かなたに若草山、東大寺が見えました。



平城天皇は平安時代初めの実在の天皇（774年生～824年没）ですから、5世紀後半と推定される古墳の年代とは、明らかに一致せず、これも謎です。



平城宮跡（へいじょうきゅうせき）

燦歩のゴールは平城宮跡です。といってもあまりに広大です。東西・南北共に1 km以上あり、「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録されています。

遺構展示館で、ボランティアガイドさんの案内で、発掘されたままの、平城宮の地面を見る事が出来ました。穴の多くは、当時の役所の建物の、柱の痕です。



平城宮跡では、朱雀門、大極殿など、往時の姿が一部復元され、今は宮殿の儀式などが行われた大極殿院の南門の復元工事が始まっています。こちらでは、工事の様態を間近に見学する事が出来ます。集合写真は、いかにも門の前で撮影しているかのように見えますが、実はイメージです。工事用の須屋根に架けられた書き割りの南門です。



15時に解散、近鉄大和西大寺駅から帰途につきました。

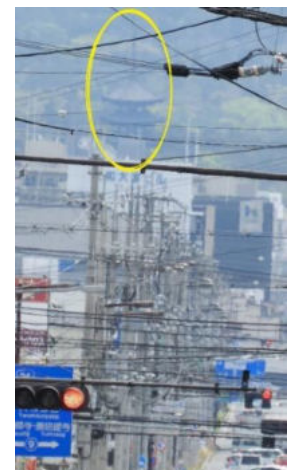
* * *

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

その1 平城京 三条大路

尼ヶ辻を通る東西の道は平城京の三条大路で、東は興福寺、春日大社に通じます。

それならば、もしかすると…と思い、東の方向に望遠レンズを向けました。見えました。おぼろながら、興福寺の五重塔です。（黄色円内）距離はおおよそ4.5 km。古代の道が今も生き続けているのですね。



その2 田道間守（たじまもり）のお墓

垂仁天皇陵の濠の中に、饅頭型の小島がぼっかりと浮かんで、のどかな古墳の風景です。小島は垂仁天皇の臣下の田道間守（たじまもり）のお墓として、天皇陵の付属の墓に治定されています。



神話では、田道間守は垂仁天皇に命じられ、不老不死の木の実「非時香菓（ときじくのかくのみ）」を探しに、常世国（とこよのくに）に派遣されます。しかし、目的を達して戻って来た時には、天皇は既に亡く、嘆き悲しんだ田道間守は天皇の陵で自殺し、この小島に葬られたというのです。

ただ、江戸時代の絵図などには、この小島が描かれていないため、謎になっています。

明治時代の工事の時に作られた島だとか、諸説あるようです。

中国秦の徐福は「蓬莱」に不老不死の薬を探しに行きますが、この御陵を地元で宝来山と呼んでいるのも、「宝来」＝「蓬莱」で、二つの神話がオーバーラップしているのでしょうかね。

なお蛇足を重ねますが、田道間守は今、この神話ゆえに、菓子神様（菓祖）と崇められています。

その3 古墳盗掘者の最期

幕末の頃、奈良奉行所でまとめられた捜査の記録「帝陵発掘一件」を、ネットで見ることが出来ます。それによれば、この近くに住む嘉兵衛（45歳）は、百姓の合間に古道具の商いもしていましたが、家族5人の生活に困窮し、御陵や神社の古代のお宝を盗んで売れば暮らしがしのげると、“ふと思いついて”、陵墓荒らしに手を染めます。1844（天保15）年9月の暮六つ（18時）頃、成務天皇陵で事に及びます。鍬で幅・深さ共3尺ほどの穴を掘ると、石のお棺が見え、曲玉50個を取り出し、穴は埋め戻します。曲玉は金1分で売り払います。（換算は一概には難しいのですが、2万円程でしょうか。当時の貧しい暮らしの中では、大変な金額だった事でしょう）“売った相手の名前は知らない”と云います。4年後9月の再犯の時は、管石68個、朱1貫200匁（4.5kg）を手に入れ、朱などは金4両1分と随分良い値で売れたようです。（換算32万円）。そしてまた垂仁天皇陵、神功皇后陵、脚を伸ばして南の石上神宮なども荒らしています。

嘉兵衛達は捕らえられ、1851（嘉永4）年2月に入牢しますが、幕末の尊王意識の高まりもあって、御陵を荒らした者への刑罰は厳しいものでした。6年後、一味12人の内、主犯4人は奈良町引き回しの上「磔」（牢内で死亡していた者は塩漬けの遺体で）、他の者も「追放」「過料」「敲き（たたき）」「手鎖30日」などと、記されています。

天皇陵などは、ほとんど考古学的な調査は行われていません。周辺の出土遺物などから、僅かに様子が知られるだけですが、この事件のおかげで、成務天皇陵、垂仁天皇陵などの古墳が、竪穴式の石室である事、長持ち型の石棺である事、棺の大きさ、蓋石は亀の形である事などが、知られるのです。また、日葉酢媛命陵では、1915（大正4）年に大掛かりな盗掘事件があり、復旧のために学術的な調査が行われました。その結果、長さ9メートル近い巨大な石室や、大きな銅鏡、巨大な埴輪、石製の副葬品などが、確認されています。

その4 破壊された古墳、平城天皇の事

平城京の建設で破壊された古墳は、この市庭古墳だけでなく、すぐ南の大極殿の下には全長114メートルの前方後円墳があった事が、確認されています。「続日本紀」の709（和銅2）年10月11日の項にこう記されています。「工事中に古墳が発見されたら、埋め戻すように。



放置してはならない。酒を注いで祀り、死者の魂を慰めよ」と。
このようなケースが、無視できない程にあったという事でしょうね。

平城天皇の一生は数奇なものです。桓武天皇の跡を継ぎますが、病気のためわずか3年で、弟の嵯峨天皇に譲位し、上皇になります。そして、平安京から旧都平城京に移り住み、政務を執ろうとしますが天皇と対立。810（大同5）年9月に兵を挙げますが、武力衝突には至らず、僅か3日で抑え込まれてしまいます。私たちが習った頃の高校日本史では「薬子（くすこ）の変」と呼ばれた事件で、変の直後、元号は「弘仁」と改められます。

上皇は出家、平城宮に住み続けますが、13年後の824（天長元）年に50歳で亡くなり、7月24日「楊梅陵（やまものみささぎ）」に葬られたと史書にあります。所が、後にその楊梅陵がどこを指すのか、分からなくなってしまいます。平安時代には、毎年代々の天皇・皇族の陵墓への参拝や巡検の制度があったのですが、やがて形式的になり中世には廃れてしまって、混乱が起きていたのです。元禄時代の幕府の調査報告では、ここではなく北東600mほどの所にある「佐紀ヒシアゲ古墳」が楊梅陵とされていて、幕末になって市庭古墳が平城天皇陵と定められたようです。

そしてヒシアゲ古墳の方は、今は 仁徳天皇の
皇后 磐之媛（いわのひめ）命の平城坂上陵
（ならさかのえのみささぎ）に治定されています。
長さ219m、二重の濠があり、後円部の堤の
所では、発掘された円筒埴輪列と石敷きとが
復元されています。



* * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

- 今後の予定は
- 5月26日（日）新緑の西教寺と大阿闍梨の飯室谷不動尊を訪ねる（滋賀）
 - 6月23日（日）『おこしやす』 京の五花街を巡る（京都）
 - 7月28日（日）日本遺産・生野銀山を訪ねる（兵庫） *青春18切符を利用
 - 8月 暑さを避けて 休会
 - 9月29・30日（日・月）ツアー 美ヶ原の自然を満喫
 - 10月27日（日）びわ湖バレーを楽しむ（滋賀）
 - 11月24日（日）京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで（京都）
 - 12月15日（日） 納会（大阪）
 - 1月26日（日）ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く（大阪）
 - 2月23日（日）西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策（大阪）
 - 3月22日（日）華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる（和歌山） *青春18切符利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。（電話090-1484-4403）
ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。（写真・文 生島 幸弥）